



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月3日

上場会社名 プリマハム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2281 URL <https://www.primaham.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 千葉 尚登
 問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 (氏名) 内山 高弘 (TEL) 03 (6386) 1800
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	332,319	4.2	18,187	46.4	18,729	44.2	11,680	41.1
2020年3月期第3四半期	318,970	0.6	12,421	9.9	12,990	8.8	8,280	6.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 13,659百万円(40.8%) 2020年3月期第3四半期 9,704百万円(22.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	232.45	—
2020年3月期第3四半期	164.78	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	224,090	110,764	44.6
2020年3月期	198,530	100,134	45.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 99,841百万円 2020年3月期 90,573百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	20.00	—	40.00	60.00
2021年3月期	—	20.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	40.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	435,800	4.2	20,200	29.2	20,700	29.7	12,500	41.7	248.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正については、本日(2021年2月3日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	50,524,399株	2020年3月期	50,524,399株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	275,777株	2020年3月期	275,049株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	50,249,053株	2020年3月期3Q	50,253,862株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、政府が短期間の集中的な取り組みを呼び掛けた「勝負の3週間」の甲斐もなく、感染拡大が続く状況のまま年末を迎えました。我が国経済は、感染防止対策により経済活動を制限せざるを得ない状況が継続しています。経済対策としてG o T oキャンペーンが実施されましたが、上記のとおり感染症が収まらない状況により、医療崩壊が危惧される中、経済対策として導入したG o T oキャンペーンも一時停止せざるを得ない状況となり、先行き不透明な局面におかれています。世界各国も、国ごとに濃淡はありますが、我が国と同様の苦慮を強いられている経済情勢です。

当業界におきましては、原料の輸入先である欧米のパッカーでの新型コロナウイルス感染症の拡大により、工場を閉鎖せざるを得ない企業やソーシャルディスタンスを維持するため、生産性が悪化する企業が断続的に発生し、出荷の遅れをなかなか取り戻せない状況が続いています。また、欧州でのアフリカ豚熱拡大懸念も先行きの供給面においての不安材料となっています。国内においても、新型コロナウイルス感染症が収まる気配はなく、都心部での再度の飲食店の時短営業が開始される等、外食産業向けの商売は非常に厳しい状況にあります。その一方、再度の感染拡大により、外出自粛、テレワークが継続し、家庭内調理需要が旺盛な市場環境が続いたため、家庭用商品は加工食品、食肉とも順調に推移しました。

このような状況のなか、当社グループは食品企業として得意先、消費者の皆様のご要望にお応えするため、感染予防を徹底し商品を提供し続けることができるよう、努力してまいりました。また、目指す姿である「健康で豊かな食生活を創造するために安全・安心な商品を提供し、社会と食文化に貢献していく」という考えを基本に、中期経営計画の目標の達成に向けて、「コーポレート・ガバナンス強化とCSR推進による継続的な経営革新」のもと「事業領域の拡大と収益基盤の更なる強化」と「成長市場に向けた事業創造とグローバル展開」を基本方針と位置づけ、諸施策を講じてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高3,323億19百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益181億87百万円（前年同期比46.4%増）、経常利益187億29百万円（前年同期比44.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益116億80百万円（前年同期比41.1%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

<加工食品事業部門>

① ハム・ソーセージ部門

巣ごもり需要により、家庭での料理機会が増え、「香薫あらびきポークウインナー」や「角切りベーコン」を筆頭にバリエーションを持たせたベーコン群、おつまみ需要としてのドライ商品や生ハム等も引き続き好調に推移しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、休園を余儀なくされていた東京ディズニーリゾートなどのイベント関連業種は、再開こそしましたが来場者を制限する対応等で、完全再開には至っておりません。当社の東京ディズニーランド®貸切プレシャスナイトへのご招待キャンペーンも、実施回数を2回にして一度の来場者数を半分にする等、様々なキャンペーンの変更または中止をせざるを得ない状況でありました。しかしながら、Web商談を実施したり、対面商談も人数を制限したりする等、得意先のご要望に応じ日々の営業活動を工夫して販売をすすめてまいりました。また、工場においては感染予防を徹底した中での生産活動でも、生産性向上のための改革・改善を継続実施し、人時生産性向上やクーティリティーコスト削減などを推進し、コスト競争力を着実に高めてまいりました。その結果、ハム・ソーセージ部門においては、売上高、販売数量とも、前年同期を上回りました。

② 加工食品部門

加工食品部門でもハム・ソーセージ部門同様、「スパイススティック」、「絶品点心春巻」の他、「直火焼ハンバーグ」等のハンバーグ群の家庭用商品や、バリエーションを増やしたプリマヘルシーシリーズの「サラダチキン」といった商品が好調に推移しました。しかし、業務用全般については、厳しい状態が続いたことから、加工食品全体としては、販売数量は前年同期を上回ったものの、売上高については前年同期を下回りました。

コンビニエンスストア向けのバンダー事業については、新商品拡大販売とエリア拡大により売上高は前年同期を上回り、利益面においても生産性の改善や原材料価格の安定も寄与したことから前年同期を上回りました。

結果、加工食品事業部門における売上高2,246億7百万円（前年同期比3.1%増）となり、セグメント利益150億29百万円（前年同期比35.8%増）となりました。

<食肉事業部門>

国際的な仕入れ競争激化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、食肉の仕入れ環境は極めて厳しいものとなりましたが、巣ごもり需要に対応し小売チャネルへの安定供給に注力致しました。同時に、オリジナルブランド商品の拡大販売や得意先の新規・深耕開拓を積極的に行い、食肉事業部門の売上拡大に努めてまいりました。また、利益面におきましては、営業事業は得意先別の収益管理を徹底しつつ、在庫を適正に管理する利益重視の販売政策を展開してまいりました。さらに、国産豚生産事業を中核事業として成長拡大を図る生産事業におきましても、国産豚肉相場が高値で推移したこと及び農場成績向上と加工生産性向上の推進により、安定した利益を確保することができました。その結果、売上高、利益面とも、前年同期を上回りました。

結果、食肉事業部門における売上高1,073億59百万円（前年同期比6.5%増）となり、セグメント利益30億57百万円（前年同期比165.2%増）となりました。

<その他>

その他事業の売上高3億52百万円（前年同期比15.5%減）となり、セグメント利益1億1百万円（前年同期比52.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ255億59百万円増加し、2,240億90百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が152億34百万円、預け金が60億51百万円、たな卸資産が21億78百万円増加したことによるものです。

(負債)

負債については、前連結会計年度末に比べ149億29百万円増加し、1,133億25百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が150億12百万円、未払金等を含むその他流動負債が31億15百万円増加し、長期借入金（1年内返済予定を含む）が24億52百万円減少したことによるものです。

(純資産)

純資産については、前連結会計年度末に比べ106億30百万円増加し、1,107億64百万円となりました。これは主に利益剰余金が86億60百万円増加したことによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ49億70百万円増加（前年同期は40億94百万円の増加）し、271億84百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは201億45百万円のネット入金（前年同期は148億4百万円のネット入金）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益186億14百万円、減価償却費72億21百万円、仕入債務145億25百万円の増加、売上債権146億47百万円の増加、法人税等の支払63億33百万円です。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは89億80百万円のネット支払（前年同期は38億83百万円のネット支払）となりました。主な要因は、生産設備更新、生産性向上及び品質安定を目的とした有形固定資産の取得による支出67億62百万円です。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは62億2百万円のネット支払（前年同期は68億48百万円のネット支払）となりました。主な要因は、配当金の支払30億11百万円、長期借入金の返済による支出26億21百万円です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、修正を行っております。

具体的内容につきましては、本日（2021年2月3日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,907	13,974
受取手形及び売掛金	42,305	57,540
商品及び製品	14,551	16,790
仕掛品	2,882	2,743
原材料及び貯蔵品	2,332	2,411
預け金	10,006	16,057
その他	1,326	1,686
貸倒引当金	△2	△3
流動資産合計	87,310	111,201
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	49,168	49,185
土地	18,742	18,892
その他（純額）	21,348	21,765
有形固定資産合計	89,259	89,844
無形固定資産	1,146	1,349
投資その他の資産		
投資有価証券	5,248	6,065
退職給付に係る資産	9,621	9,934
その他	5,966	5,713
貸倒引当金	△21	△18
投資その他の資産合計	20,814	21,695
固定資産合計	111,220	112,888
資産合計	198,530	224,090

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	44,988	60,001
短期借入金	265	772
1年内返済予定の長期借入金	3,432	3,452
未払法人税等	3,733	3,027
賞与引当金	1,427	634
役員賞与引当金	30	—
その他	14,293	17,409
流動負債合計	68,171	85,298
固定負債		
長期借入金	19,639	17,167
役員株式給付引当金	31	54
退職給付に係る負債	4,713	4,869
資産除去債務	363	384
その他	5,476	5,551
固定負債合計	30,225	28,026
負債合計	98,396	113,325
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,908	7,908
資本剰余金	8,600	8,601
利益剰余金	69,911	78,571
自己株式	△409	△412
株主資本合計	86,010	94,669
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,567	2,123
繰延ヘッジ損益	△81	9
土地再評価差額金	2,518	2,518
為替換算調整勘定	△36	69
退職給付に係る調整累計額	594	451
その他の包括利益累計額合計	4,562	5,172
非支配株主持分	9,561	10,923
純資産合計	100,134	110,764
負債純資産合計	198,530	224,090

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	318,970	332,319
売上原価	267,562	275,327
売上総利益	51,408	56,992
販売費及び一般管理費	38,987	38,804
営業利益	12,421	18,187
営業外収益		
受取利息及び配当金	134	133
持分法による投資利益	—	33
補助金収入	100	85
その他	583	506
営業外収益合計	818	760
営業外費用		
支払利息	112	96
持分法による投資損失	23	—
たな卸資産廃棄損	69	79
その他	43	42
営業外費用合計	249	218
経常利益	12,990	18,729
特別利益		
固定資産売却益	2,234	13
投資有価証券売却益	4	31
補助金収入	154	154
受取補償金	—	223
その他	6	0
特別利益合計	2,399	422
特別損失		
固定資産売却損	3	2
固定資産除却損	165	526
減損損失	743	—
その他	6	7
特別損失合計	918	536
税金等調整前四半期純利益	14,470	18,614
法人税等	4,692	5,565
四半期純利益	9,778	13,048
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,498	1,368
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,280	11,680

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	9,778	13,048
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47	553
繰延ヘッジ損益	△38	91
為替換算調整勘定	145	120
退職給付に係る調整額	△212	△142
持分法適用会社に対する持分相当額	△16	△10
その他の包括利益合計	△74	611
四半期包括利益	9,704	13,659
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,207	12,290
非支配株主に係る四半期包括利益	1,496	1,369

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,470	18,614
減価償却費	7,100	7,221
減損損失	743	—
のれん償却額	84	99
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△749	△829
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	125	137
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△624	△531
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	13	22
受取利息及び受取配当金	△134	△133
支払利息	112	96
投資有価証券売却損益 (△は益)	△4	△31
持分法による投資損益 (△は益)	23	△33
有形固定資産売却損益 (△は益)	△2,230	△10
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	5
有形固定資産除却損	165	526
補助金収入	△154	△154
売上債権の増減額 (△は増加)	△8,399	△14,647
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△477	△233
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,186	△1,904
仕入債務の増減額 (△は減少)	8,466	14,525
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	2,865	4,014
未払消費税等の増減額 (△は減少)	560	△510
長期未払金の増減額 (△は減少)	25	△0
その他	13	39
小計	18,807	26,278
利息及び配当金の受取額	136	141
利息の支払額	△114	△95
法人税等の支払額	△4,179	△6,333
補助金の受取額	154	154
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,804	20,145

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△12,462	△6,762
有形固定資産の売却による収入	11,628	33
無形固定資産の取得による支出	△106	△547
投資有価証券の取得による支出	△11	△115
投資有価証券の売却による収入	6	188
貸付けによる支出	△12	△5
貸付金の回収による収入	33	28
敷金の差入による支出	△21	△50
敷金の回収による収入	21	12
定期預金の増減額 (△は増加)	△235	△1,104
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△132
長期前払費用の取得による支出	△2,659	△104
その他	△60	△420
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,883	△8,980
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△88	18
リース債務の返済による支出	△829	△579
長期借入金の返済による支出	△2,880	△2,621
配当金の支払額	△3,010	△3,011
非支配株主への配当金の支払額	△7	△7
自己株式の取得による支出	△32	△2
自己株式の売却による収入	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,848	△6,202
現金及び現金同等物に係る換算差額	22	8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,094	4,970
現金及び現金同等物の期首残高	13,732	22,214
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,827	27,184

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	加工食品 事業部門	食肉事業 部門	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	217,778	100,773	318,552	417	318,970	—	318,970
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	10	17,253	17,263	55	17,319	△17,319	—
計	217,789	118,027	335,816	473	336,289	△17,319	318,970
セグメント利益	11,071	1,152	12,223	212	12,436	△14	12,421

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、理化学機器の開発・製造・販売等を含んでおります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「加工食品事業部門」セグメントにおいて、新工場建設に伴い取り壊し予定の資産に対し、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において7億43百万円です。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	加工食品 事業部門	食肉事業 部門	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	224,607	107,359	331,966	352	332,319	—	332,319
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	10	15,893	15,904	35	15,939	△15,939	—
計	224,618	123,253	347,871	388	348,259	△15,939	332,319
セグメント利益	15,029	3,057	18,086	101	18,187	0	18,187

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、理化学機器の開発・製造・販売等を含んでおります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。